

## フィンドレー大学への交換留学 月例報告書4月分

最後の月例報告書です。この交換留学はたくさんの挑戦と失敗を繰り返して自分の可能性を大きく広げることができた留学だったと思います。4月の活動2つと今までのまとめについて書いていこうと思います。

1つ目は Culture Connection のパネルディスカッションに参加しました。いつものように、内容は後で説明するから「やるか・やらないか」を“今”教えてほしいというアメリカ流のメールを受け取りました。八ヶ月もいると人間は慣れるものです。もちろん、答えは「YES」です。これは私たちが行ってきたコミュニティへの文化活動を支援し出資してくれた団体に対して一年間の成果を発表するものです。パネルに元気キッズ・おにぎりアクション・Funday Sunday・International Mother Language Day などなどの写真を貼り、訪れた関係者の方々に対して何をして、どうコミュニティに貢献したのか説明しました。「ただ、喋ればいいだけだから!」と当日言われた時は（それが一番難しいのに!スクリプトつくらせてくれ~!）と思いましたが、いざその人たちの前に立って説明してみるとまるで八ヶ月前とは別人のように堂々と喋ることができました。勿論、まだまだ完璧な英語とは程遠いですが、一年間頑張ってきたことを精一杯の思いを込めて喋ることでしっかりと伝えることができたと思います。

さらに、コミュニティに対しての奉仕活動から「私がいることで何が変わるか」ということをより強く考えるようになりました。先生はいつも「You make difference.」とおっしゃいます。一人ひとり持っているもの、できることは違います。私だったら日本人というユニークなバックグラウンドを持っています。それを様々な活動を通じてコミュニティにシェアすることで人々は新たな文化・考え・アイデアに触れることができ、多文化を理解しあうより良いコミュニティへの成長を手助けしているのだと実感しました。2月に Findlay High School で行ったソーラン節のダンスが Van Buren という別の地区の担当者の目に留まり「ぜひ、参加してほしい。」とのオファーを貰うことができました。それこそ「日本人留学生である“私たち”がここにいる意味」だったと思いました。



2つ目は「Bridging Cultures Award」を受賞できたことです。これは特に International mother Language Day での働きを評価して頂きました。この賞を私に選んでくれた Dr. Fennema からは、バングラデッシュ出身の留学生の中に日本人である私が飛び込むことで、まず、日本とバングラデッシュの留学生を繋ぎ、そして他の国からの留学生を繋ぎ、イベントを通じてさらに留学生と現地の学生とも繋ぐことができたとおっしゃってくれました。

この留学では言語、文化、価値観、そして人種によってコミュニティが形成されるという目には見えませんが、厚い壁があることに気づきました。ラウンジや食堂を見回しても「居心地の良さ」からか、やはり同じ国出身の人同士で固まる傾向が強くそれが目に見えない厚い壁となっているのではと考えました。留学生と現地学生の間にあるその壁を取り払うことはなかなか難しいですが、自ら居心地の良い場所を飛び出し、たくさんの人の力を貸してもらいながらこのイベントを開催することで、壁で隔たれていた両者を繋ぐまさしく「架け橋」としての役目を果たすことができたと思います。これこそ私がいることで今までとの違いを少しでも生み出すことができたのではないのでしょうか。ちなみにこの賞は現地の学生のみが今まで受賞していたそうですが、私がこの賞を受賞した初めての留学生となったようです。それを聞いたときは驚いたのと同時に大変誇らしく思いました。



### বাংলাদেশ স্টুডেন্টস এসোসিয়েশন অফ ফিন্ডলে ইউনিভার্সিটি আন্তর্জাতিক মাতৃভাষা দিবস উৎযাপন

ওয়েইও সংবাদ  
বাংলাদেশ স্টুডেন্টস এসোসিয়েশন অফ ফিন্ডলে ইউনিভার্সিটি উদ্যোগে ময়ান একুশে ফেব্রুয়ারি আন্তর্জাতিক মাতৃভাষা দিবস উপলক্ষে আলোচনা সভা ও সাংস্কৃতিক অনুষ্ঠানের আয়োজন করা হয়। উক্ত অনুষ্ঠানে উপস্থিত ছিলেন ফিন্ডলে সিটির মেয়র শ্রীটিনা মাইরন। অনুষ্ঠানের আয়োজন করেন একফেসর হিরোজী কাওয়ামোর। সাংস্কৃতিক অনুষ্ঠানে বিভিন্ন দেশের ছাত্র ছাত্রীরা অংশগ্রহণ করে। বাংলাদেশী শিল্পীরা হুসেন সাবরিনা কবীর, আইরিন পারভীন, ফারনাজ শারমিন, রাতুল হাসান, শরীফ বান, শারমীনা আক্তার, ওয়াশিকুর রহমান, ফারজানা ইয়াসমীন, দেওয়ান মুস্তাসীর রহমান, মারজান আক্তার, তাললিমা আক্তার। জাপানী স্টুডেন্ট হিরোমী হিরানো, রিমন মাতসুমুতু। আইওয়ানী স্টুডেন্ট মেং তিং চুং। হিঃ মিন কুং সাউথ কোরিয়া।

コロバスのバングラデッシュ新聞にこのイベントのことが載ったと友達が教えてくれました。マーカーの部分が私の名前だそうです。

大学3年生の時に始まった新型コロナウイルスによるパンデミックが英語の勉強のきっかけに繋がり、「このまま私の大学生活を終わらせたくない!」という気持ちと自分の世界を広げるためこの交換留学に参加しました。しかし、そのために休学をし、卒業・就職時期を延ばすという“普通”とは違う選択に本当にこれでよかったのか何度も悩みました。実際にこちらに来てからも、ありえないほどの円安や、ありえないほどの田舎でカフェやコ

コンビニはおろか Wal-Mart ですら自由にいけない環境、思っている以上に自分の英語は聞けないし話せない。前期の日本人ばかりの IELP のクラス、そしてすごくドライなアメリカ人などなど想像以上につまらない毎日に「こんなはずじゃなかった!」と思った日々もありました。

しかし、つまらないからと拗ねていては何も始まりません。新しい場所に一步を踏み出す勇気を大切に様々なことに挑戦してきました。その結果、たくさんの新しい人に出会い、たくさんの新しい場所に行き、たくさんの学びを得ることができました。これは、留学に行く前は想像もしていなかったことばかりでした。

その中でも、ここで出会った3人の友達に感謝したいと思います。毎日一緒にご飯を食べその後、寮の談話室で勉強をしました。私が何か新しいことに挑戦するといつも「I know you can do it.」といって応援してくれました。友達の家族もホリデーに家に招待してくれるだけではなく、合唱の最後のコンサートに私の分の花束を持ってきて駆けつけてくれました。そして「あなたは家族の一員」と言ってくれました。私の毎日を色鮮やかに、賑やかに、そして忘れられない大切な思い出に変えてくれたのはこの3人でした。最後は涙、涙のお別れでしたがいつかまた会おうと約束しているのでその日が楽しみです。



そして最後まで頑張ることができたのは、ここまで支えてくれた全ての人たちのおかげだと思っています。留学前から相談にのり、この留学を支えてくださった森先生、教務学生室の方々、上村先生。日本にいる友達たちも進んだ道は違って連絡を取り合い、たまのビデオ通話では何時間も止まらないおしゃべりがいい息抜きになりました。そして何よりこの選択を誰よりも応援してくれた家族に心からの感謝をしたいと思います。

最初の活動報告書では『時間的・金銭的・自分の気持ちをかけてきた留学がこれか…』というのが正直な感想です。多くの支えてくださった人が「楽しんできてね。」と言っていますが「楽しむ」ことがこんなに難しいとは思いませんでした。気持ちを切り替え

て頑張らないといけないですがそう簡単に割り切れるものではないので、何とかしようと毎日頑張っています。』と書きました。しかし、たくさんのことを乗り越えた今では胸を張って言うことができます。「この九ヶ月間、精一杯、全力で楽しんできました!!」

